2　S. Thomas, The British Negociator について

大河内一男

本書は

S. Thomas, *Merchant, The British Negociator: or, Foreign Exchanges made perfectly easy*, London, 1759.

で、ボナァの「スミス蔵書カタログ」（改訂版一九三二年）一八五頁に記載されている。所有者表示の箇所にはGUとあるから、グラスゴオ大学所蔵のものだったことになる。書物は、小型の為替換算表で、縦一七センチ横八センチ、三〇〇頁のものである。

現在、東京大学経済学部がスミス蔵書のうち約三〇〇冊を所蔵していることは別記（一七〇頁）したが、右の一冊は、それとは全く別の経路で、現在は、東京大学の所蔵になり、そこの「アダム・スミス文庫」の一部になっている。ここにその経緯を記しておきたい。

私が一九五四年の冬、当時ロンドン滞在中、たまたまなじみの古書肆ハーディングの店で、古本をあれこれ漁っていたおり、店主のウィーラー老人の私室で雑談しているうち、話がスミス蔵書のことにおよんだ。私が東大所蔵の「アダム・スミス文庫」の話をしたところ、老人は、実は自分もスミスの蔵書を一冊もっているという話である。私はいま時考えられないことなので、おおいに驚いていると、老人は早速自分の書棚のなかから小型の古書を一冊とりだして来て、これだ、と言う。みると右のS・トマスのものだし、例の特徴

羊皮紙・手書きの一本『ヴェネチア刑法』の外装(左)と S. トマス『ブリティッシ・ネゴシエーター』のタイトルページ(右)

的なスミスの蔵書票もちゃんと扉の見返しのところにはられている。幸いウィーラー老人は私の熱意に感じてか、この本を売ってくれることを承諾してくれたので、私は早速その場で金を払って、下宿へもち帰った。だが、なぜこんな珍稀なものが、こんなところにあったというのだろう、私の疑念はその点にあった。ボナアのカタログには、明らかにグラスゴオ大学所蔵と記載されている。カタログの註記をみると、このスミス蔵書のトマスの本は、かつてのグラスゴオ大学のアダム・スミス講座担当教授だったW・R・スコット博士がJ・S・ニコルソン教授から贈られたもの、と記されている。みると、タイトル・ページの上方には、なるほど「J・シールド・ニコルソンからW・R・スコットへ。一九一一年クリスマス」と書かれている。ニコルソン教授の直筆である。私はニコルソンがどういう因縁でこの本をスコットに贈ったのかは知らないが、爾来スミス研究家として令名の高いスコット教授がこの本を所蔵していたことは明らかである。古書肆の経営者ウィーラー氏は、一九四一年にスコット教授の蔵書を買い受け、ほとんどをロンドン大学に売ったが、

どうしたわけかスミス所蔵のトマスの書物だけは大学へ売らずに、私蔵していた。おそらくスミスの蔵書票をめずらしく思ったせいだろう。だが私のとけない疑問は、なぜスミス蔵書をスコット教授ともあろうものが古書肆に売り払ったのか、ということである。おそらく教授の不注意からであろうか。それからもう一つ、何故、ボナァ教授がそのカタログの中でグラスゴオ大学所蔵とことわってあるものをスコット教授がハーディング書肆に売ることになったのか、故意ではなく、おそらく何かの間違いだったのだろうと思う。ところが、なお不思議なのは、グラスゴオ大学の蔵書カタログにはこのトマスの書物がないし、司書にきいても知らなかった、ということである。私の買ったトマスの書物にはグラスゴオ大学の所蔵であることを示すものは何も見当らなかった。してみると、ボナァのカタログがこの書物をグラスゴオ大学所蔵と記載していることの正否も、問題になるかも知れない。

そこで私は、このトマスの書物が、グラスゴオ大学から何かの拍子に流れ出したか盗み出されて、ハーディング書肆にたどりついたのでないことを明らかにしておきたいと思ってウィーラー老人に左のような一札を書いてもらって持っている、――

「この書物(トマス著、ブリティッシ・ネゴシエーター、一七五九年刊)は、一九四一年グラスゴオで私がW・R・スコット教授から買い受けたものであり、教授個人の所有していたものと思う。

一九五四年十月二十九日

ジョージ・A・ウィーラー」

その後私は、日本にもどってから、このスミス蔵書の一冊を、東大経済学部に寄贈し、いまでは同学部所蔵の「アダム・スミス文庫」の一冊になっており、右のウィーラー老の手紙も経済学部が保管している。